

平成26年度第1回青森県立郷土館協議会について（会議概要）

今年度第1回目の青森県立郷土館協議会が開催されましたので、その内容をお知らせします。

1 日時 平成26年6月23日（月） 午後1時30分～

2 場所 青森県立郷土館小ホール

3 協議内容

- (1) 平成25年度事業実施報告
- (2) 平成26年度事業実施計画
- (3) 青森県立郷土館の博物館評価
- (4) その他
 - ① 豊かな自然・文化遺産を活用するデジタル郷土館事業
 - ② 奈良岡正夫油彩画寄附受納及びみちのく歴史人物資料館資料寄贈
 - ③ 県有施設天井落下防止対策工事

4 協議内容についての質疑・回答事項

- (1) 前回までの会議で出された意見の反映状況について伺いたい。

意見	反映状況
アンケートについて 回答率を上げる工夫をして、有効な活用をしてほしい。	書きやすいアンケートをめざし改善に努めた。受付の仕切りも、開放部分を大きくし、来館者との距離を縮めるための工夫をした。
喫茶スペースについて もう少しゆっくりできる場所が欲しい。	展示室内は飲食を遠慮いただいているため、1階のカップ式自動販売機のドリンクコーナーに限定している状況である。
郷土館に来た記念のお土産が欲しい。 ポストカードなどがあればよい。	観光手形（特典付き青森ガイドブック）を持ってきた方に、平尾魯仙の虎絵図と牡丹のポストカード2枚を差し上げている。

- (2) 博物館国際交流のロシア連邦ハバロフスク地方郷土博物館やアメリカ合衆国メイン州立博物館との文献資料の交換とは具体的に何を行っているのか。図録の交換なのであれば、文献資料の交換というよりも、成果物の交換、刊行物の交換と表現するのが適切と思う。ロシアの文献資料が郷土館にあると勘違いされる恐れがある。

→ 今までの例では、郷土館で行った展示会の図録の交換を指している。
今年度のハバロフスク博物館との交流は交換写真展を行う予定となっており、電子データで提供する写真資料が加わることになる。

5 協議内容に対する意見

○…委員の意見 ◆…郷土館の発言

【平成26年度事業実施計画について】

- 「おもちゃ百科図鑑」は、非常に工夫された展示会であった。今回は第1章から第5章までで構成され、特に第1章ではおもちゃの歴史が詰まっていた、学芸員ならではの知識の豊富さがよく表れていた。特にキャプションの付け方など大変勉強になった。また、第5章の郷土館職員の方々の平成時代のコレクションは非常に豊富で、展示会にしまりが出たと感じる。動くおもちゃは子供たちにとって非常に楽しく、幅広い層に受け入れられる展示会につながった。ミニカーを探せという企画は常設展への誘導につながり、郷土館の魅力をさらに引き出すことになった。私も賞品を提供したが、すぐなくなってしまうほど子供たちが喜んでくれて良かった。広報も積極的に行われ、県南の方たちもだいぶ足を運んだようだ。1時間以上滞在し観覧した方が多いようだ。よく勉強し、キャプションも分かりやすく工夫され、職員の方々の意気込みを感じる魅力ある展示会であった。
- おもちゃ展では「ミニカーを探せ」という企画のおかげで、常設展示もゆっくり見ることができ、あらためて展示資料の豊富さに感心した。おもちゃ展だったのでミニカーだと思うが、たとえば「リンゴを探せ」などの企画がいつも行われていれば、子供たちも考古展示室などに足をはこぶと思いました。

広報に関しては、コンビニにリーフレットやちらしが置かれたことにより、若い人たちが足が運びやすくなり来館者の増加につながったと感じている。
- 5月18日の国際博物館の日が無料開放日だということは、一般の方はあまり知らないと思う。秋の東北文化の日の2日間も無料だということも知らないと思う。知っていれば、来館者がもっと増えたのにと残念に思います。
 - ◆ 5月18日の国際博物館の日の来館者は500人を超え、開催期間中を通じて最も来館者が多い日であった。今後も、もっともっと周知する必要があると感じている。
- 広報活動について、私は、弘前市で観光ボランティアガイドをしているが、5月に豪華客船から弘前観光に来た人のガイドをした。弘前公園内や最後はねふたの館を熱心に見ていた。

郷土館も、船の管理会社に事前に観光コースに入れてもらうよう要望しておくことが必要ではないか。船客の中では、観光に出るのが半分、残り半分のうちの三分の二は町が近ければ出て来る。その方々に英語版のリーフレットを配ることも必要であるが、郷土館だけアップするのではなく、郷土館の前にはこういうおいしい店があるとか、こういう買い物ができるという情報があれば町に出てくると思う。例えば、駅から郷土館までの情報を提供すれば、外国の方は買い物や食事をしながら郷土館に来てくれるのではないか。

ガイドをして感じることは、英語の表記が少ないということ。まだまだ青森県は遅れている。
- ◆ 5月27日のダイヤモンドプリンセス号入港の際にはリーフレットを渡し総合博物館であることをお知らせすることができた。そのうち26名の方に来館いただくことができた。笑顔での対応を今後とも心がけたいと思います。

【青森県立郷土館の博物館評価について】

- 「施設」について、可能であれば、「ファシリティーマネジメント」の導入について郷土館が打ち出すことを提案する。個別には採用されているが、枠組みとして「ファシリティーマネジメント」手法を導入することを打ち出されたほうがよいと思う。予算面、人材の確保、手法の会得という課題もあるので、順次できるものから手をつけていくのが現実的である。
- おもちゃ展に来たときに、父は車いすを利用したがエレベータを利用する時は、その都度、解説員の方がその場から離れてエレベータまで案内し、ボタンを押していただくことになり、心苦しい思いをしました。そういうあたりからファシリティーマネジメントの手法を取り入れてみたらと感じました。老人福祉施設の方が大挙して来館したときにどのように対応するのかという疑問を持ちましたので、検討していただきたいと思います。
- 来館者に心苦しいと思わせるのはまずいと思う。障害のある方も自然に観覧できるようにすることが必要だと思います。

◆ 県では、ファシリティーマネジメントの手法を平成16年度から導入し、県全体で取り組みを進めている。

収蔵スペースの確保は郷土館の喫緊の課題であり、現在の財政状況からすれば建て替えることは不可能な状況にあることから、県有不動産利活用推進会議を活用し代替施設の確保に取り組んでおります。まずそれを確保した上で、計画的に郷土館の課題の改善に向け取り組んでいきたいと考えている。

【豊かな自然・文化遺産を活用するデジタル郷土館事業について】

- デジタル郷土館事業を進めていただき、来たらやっぱりそうだった、期待した以上にもっとすごかったという感動や新たな発見を与えていただきたい。学芸員の方々には郷土館の持っている宝物をもっともっと発掘していただきたい。
デジタル郷土館事業についても、作ることに労力を費やしてしまうのではなく、何を伝えたいかという基本的なことを忘れずに、待っている人たちのために、すばらしいものを作っていただきたくことを願っている。

- デジタルミュージアムを見て、おもしろいな、じゃ実物を見てみようという郷土館にやってくる。それはそれで大きな役割であるが、観光社会学分野では疑似イベントと呼んでいる現象で、「ガイドブックや写真やビデオを見て現地に行く、そして、あ、ガイドブック、写真、ビデオと同じだ。来て良かった」で終わらないようにする必要がある。
次に、障害者等へのアクセシビリティがあるが、郷土館に行きたくても行けない方のために、画面を通して郷土館の財産を届ける（アウトリーチサービス）ツールにもなるので、たいへんすばらしい企画だと思う。

◆ 当館では実物資料の持つ力を信じております。美術館のように、一点のみの力で多数の観覧者を呼ぶ目玉はないのかもしれませんが、総合博物館としての実物資料の魅力当館に足を運んで感じてもらう、デジタルミュージアムはその窓口になると思っています。